

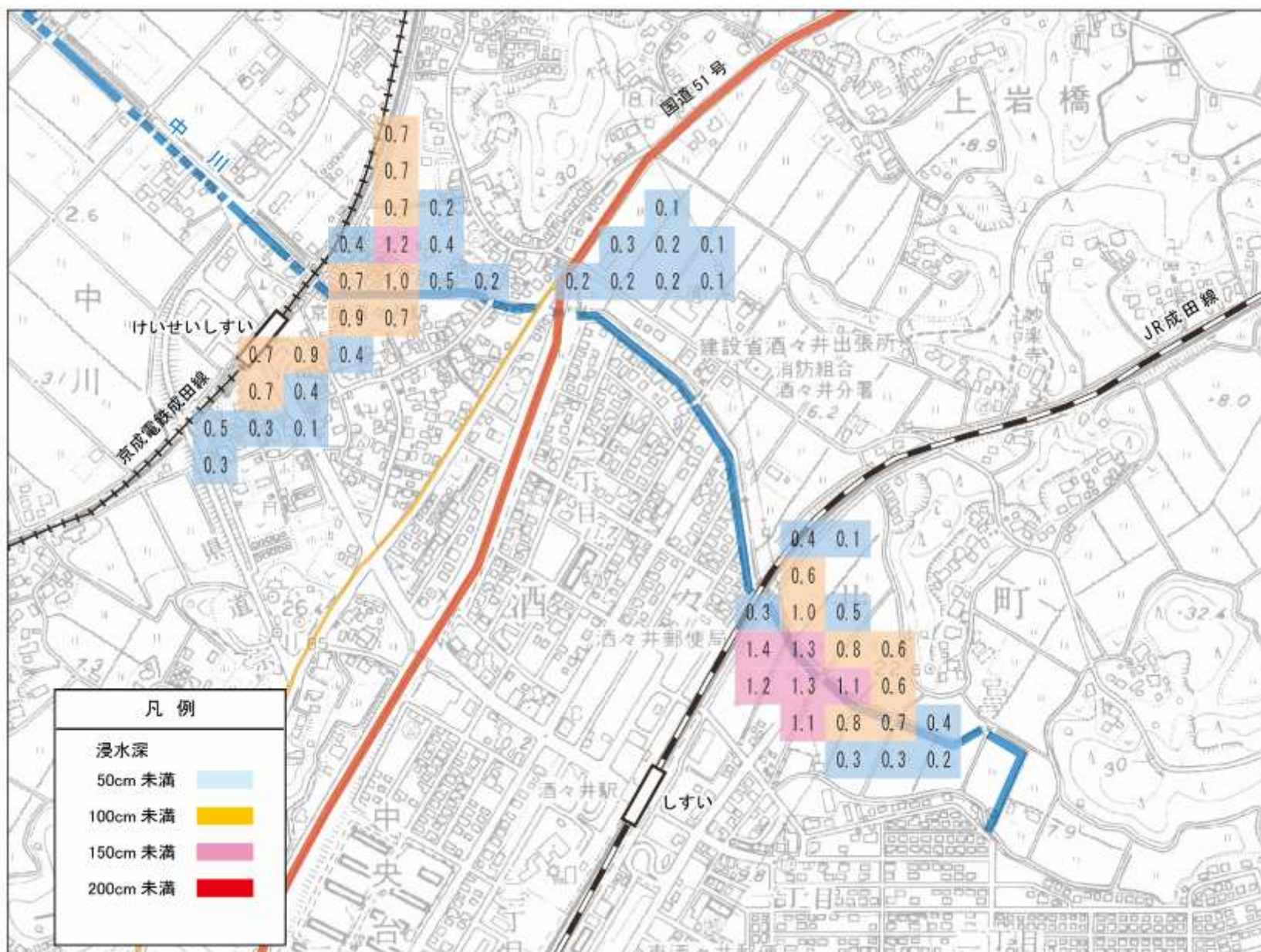
## 平成 16 年洪水実績

平成 16 年 9 月 4 日  
時間最大雨量 77mm/hr  
連続降雨量 186mm

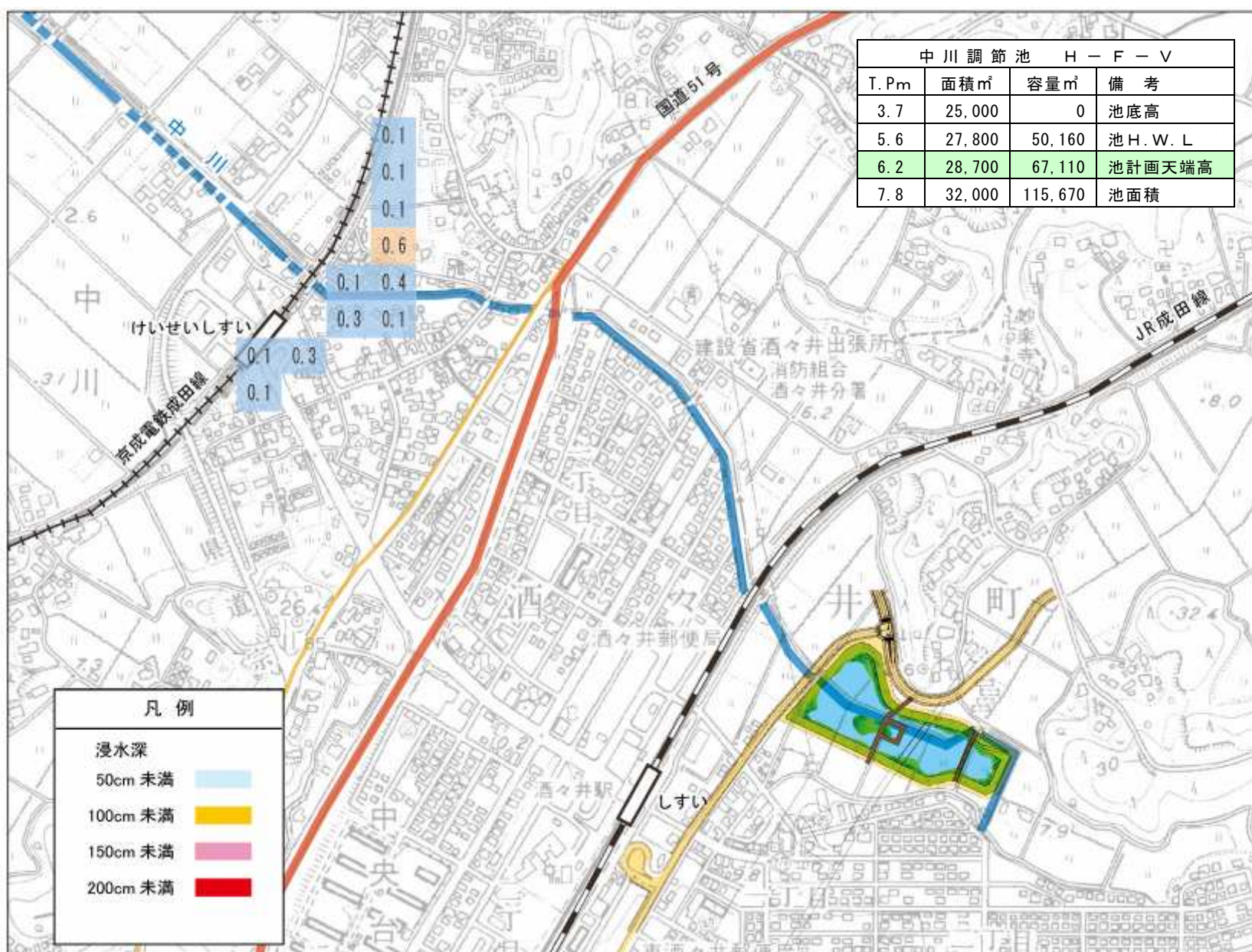
J R 線上流域の  
実績湛水容量  
⇒ 37,500m<sup>3</sup>  
最大湛水深 1.4m

京成線上流域の  
実績湛水容量  
⇒ 35,000m<sup>3</sup>  
最大湛水深 1.2m

合計実績湛水容量  
⇒ 72,500m<sup>3</sup>



調節池があれば



J R 線上流側に調整池を設置すると、貯留量は、  
⇒ 67,110m<sup>3</sup>となる。

調整池の設置前と比較すると、  
⇒ 37,500-67,110  
= -29,610m<sup>3</sup>  
も湛水容量が、増強される。

京成線上流域では、その効果を受けて湛水量、浸水深が減少する。

京成線上流域の湛水量は、  
⇒ 35,000-29,610  
= 5,390 m<sup>3</sup>

**最大浸水深 : 0.6m**  
に減少し、

床上浸水家屋は 18戸が 8戸に、  
床下浸水家屋は 40戸が 20戸に減少する結果を得た。

また、補助対象外ではあるが、池の容量を増加させることで床上浸水の予想される 8戸についても対応できる柔軟性を調節池は持ち合わせている。  
(5,390 m<sup>3</sup>を池に付加。)

調節池による調節効果（平成 16 年洪水における浸水域の変化）